

JR九州がメンテナンス業務を直営・約180人直接雇用化 外注化は破たん—ただちに撤回を

◇JR九州が外注化を撤回し、メンテナンス業務を直営化

【ポイント】

- ・外注化されていた各車両区所における仕業検査などの検査修繕業務、車両入換業務などを直営化
- ・外注先（JR九州エンジニアリング）の社員約180人をJR九州本体へ転籍
- ・直営化の理由は「社員の退職状況」「管理業務の重複の解消」「契約業務の解消」

（2026年4月16日付 交通新聞の記事より）

JR九州は4月1日、JR九州エンジニアリング（JR九州の孫会社）に外注化していた各車両区所における仕業検査や車両入換業務などを直営化、当該業務を行っていた約180人がJR九州へ転籍となりました。

JR九州は直営化の理由に「社員の退職状況」「管理業務の重複や契約業務の解消」を挙げています。つまり、徹底的に労働条件を破壊し、低賃金を強制する外注化攻撃が破たんしたということです。

JR東・外注化の破たん

外注化の破たんした現実、まさにJR東日本で起こっていることそのものです。

CTSP
ローパー社員
の仲間はあまりに低い労働条件を強制され、幹部はすべ

てJR東からの天下りで牛耳られ、同じ検修業務を行っていてもJR社員とは格差をつけられています。退職者が止まらず、「要員不足」となるのは当然です。

さらに深刻なのは、鉄道の安全がその根幹から崩壊していることです。

今年に入ってからだけでも、山手線・京浜東北線の停電事故、上野駅で架線断線による停電、宇都宮線での架線断線と大規模な運休が繰り返され、3月28日には中央本線で走行中の特急列車のドアが開き、4月2日には宇都宮線・白岡駅のホームのモニターが支柱ごと傾き、列車と衝突しかねない事態も引き起こされています。

今こそ職場からの闘いを

すでに喜勢社長自身が、「（外注化施策の）スキームは破たんしている」と言わざるを得なくなっています。しかし、JR東は4月1日から機能保全業務の外注化拡大を強行しました。絶対に許すことは出来ません！ ただちに外注化を撤回し、すべての仕事とローパー社員を含めたすべての仲間をJRに戻すのが当然です。

会社は自ら生み出した矛盾に追い詰められています。必要なのは職場からの団結した声と闘いです。外注化撤回の声をあげよう。